

2020年2月13日(木)

老球の細道525号

## 大人の後ろ姿で子どもは学ぶ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

孫娘がフラフープ、ドリブルと練習の成果を見せている。ほめればほめるほど練習をやり続ける。私がもういいだろうと思っていても「見て、見て」としつこく繰り返す。我が子を育てていた時は、できないと「もういい。やめろ」と次のチャレンジを応援しなかった。下記は「子育ての極意」であるが、「子ども」を「選手」に置きかえても読める。

もし、子どもが批判にさらされて生きているのであれば

他人を非難することを学ぶでしょう

もし、子どもが敵意の中で生きているのであれば

闘うことを学ぶでしょう

もし、子どもがあざけりの中で生きているのであれば

内気になることを学ぶでしょう

もし、子どもが不安の中で生きているのであれば

恐れることを学ぶでしょう

もし、子どもが寛容の中で生きているのであれば

忍耐強くあることを学ぶでしょう

もし、子どもが受け入れられて生きているのであれば

愛することを学ぶでしょう

もし、子どもがよいと認められて生きているのであれば

自分自身を好きになることを学ぶでしょう

もし、子どもがなしたことを認められて生きているのであれば

目標を持つことは良いことだと学ぶでしょう

もし、子どもが誠実に扱われて生きているのであれば

真実が何であるのかを学ぶでしょう

もし、子どもが公正に扱われて生きているのであれば

正義が何であるのかを学ぶでしょう

もし、子どもが安心して生きているのであれば

自分自身と自分の周りのものを信頼することを学ぶでしょう

もし、子どもが親切にされて生きているのであれば

世界は生きたり愛したり愛されたりする素敵な場所だと学ぶでしょう

「子どもは親の言うことは聞かない、親のやっているように行動する」「選手はコーチが思っているほど思っていない」。子育て、選手育ての基本原則である。人を育てる喜び、面白さは、この試練と闘いながら経験するものである。「もうだめだ」ではなく「まだだめだ」。